

英語論文講座を開催しました！

10月28日（金）長崎県立大学地域創造学部より麻生雄治准教授をお招きし、英語論文の作成方法についてご指導いただきました。高校2年生国際科のSGH研究班16班の代表32名が参加し、論理的な段落を構成するためのノウハウやステップを学びました。はじめに、効果的な課題研究の進め方についてご助言をいただきました。テーマはできるだけspecific（具体的に焦点を絞り）にし、問題の設定は疑問形を含めるとわかりやすいということをご教示いただきました。次に、主題文とし適切な英文を考えたり、内容を名詞節に入れ込む表現演習に取り組みました。

（例）英語は国際語だから小学校で教えるべきだという議論は、広く普及している言語が国際語であるという間違っただ仮定に基づいている。

→ The argument that we should teach English at elementary school because it is an international language is based on a false assumption that a widespread language is an international language.

まず、センター試験の問題を例に、1つのパラグラフは1つのメッセージでのみ構成することを確認しました。日本語逐語訳的な英語に対する注意や、参考文献の示し方をご紹介いただき、今後のSGH研究論文作成の際にとっても役立つ内容でした。参加した生徒からは、「アンケート調査を実施するのでdo a questionnaireという表現を使います」「英文を読む際にもパラグラフ構成に注意してみます」「ディベートへの助言もいただけて良かった」といった感想が聞かれました。



商店街でSGHの研究成果を発表

11月3日（木）に長崎大学が主催する「サイエンスファイト」にて、2年5組の山本萌永さんと2年7組の小笹愛実さんがポスター発表を行いました。ベルナード観光通に集まった聴衆に、SGH研究で取り組んだ「石鹸を用いて効果的に手を洗淨し、感染症を防ぐ」というテーマを具体的に説明しました。集まった子供たちと

「手洗い体操」を一緒に行ったり、市民や学生と意見交換を行いました。参加した2人は「他校から参加した学

生も積極的に発表し、刺激を受けました。石鹸の臭いや洗淨後の排水についての質問や助言もいただき、今後の研究に役立てたいと思います。」と述べてくれました。



